パラノーマル研究の現状

越川則子
中嶋ゼミ・97L1039A

目的

いわゆる心霊的現象や超自然的現象は、あらゆる時代に報告されており、また近年においては、メディアなどもそれらを扱うこともある。そうした現代の科学知識では説明できない不思議な現象のことを超常現象とよび、超常原理の実在を実験で証明しようと試みる研究に、超心理学、パラサイコロジー(parapsychology)研究がある。

現在のパラサイコロジー研究は、CIAの否定的な報告があったが、心理学データベースPsycINFOによる検索結果では、分野における研究文献の数にそれほどの変動もなく継続している。またパラサイコロジー研究の歴史上、ただの1度も十分な形で証明されたことがないとの声も内外から出ている。このような発言に関する是非については多くの意見があるであろう。しかし、このような発言からも、研究対象や方法が多岐にわたり、構造の把握がわかり難いことが読み取れる。

そこで、本研究は1995年以降のパラサイコロジー研究分野における研究構造が、どのようになっているのかについて調査、検討することを目的とする。また研究構造の把握には、引用分析の用法である共引用、2 step-map、および書誌情報の分析を行う。

研究方法

研究領域の構造を把握するための手法としてSmall(1973)によって提唱された共引用分析を使用する。共引用分析とは、選考する2つの文献の類似性をその後の文献に同時に引用される数によって測定するものである。ともに引用される回数が多いほど2つの文献の共引用関係の強度が高いこととなり、類似性が高いことが示される。共引用分析ではこの共引用関係の強度を測定し、文献間の類似性を調査することで各文献をグループ化し、共引用マップを作成することで研究領域の構造を明らかにすることが可能である。また、文献の類似性を計量的に測定する手法として、表題・抄録中の語の共出現などの尺度に基づいた様々な手法よりも妥当な結果を導き出すことは、岸辺和明ら(1991)によって明らかにされている。

調査手順

共引用分析の調査手順は以下のようになる。

1.引用主体となる研究文献の検索
2.引用文献の検索
3.高頻度引用文献の選定
4.共引用マップの作成

研究対象はSSCI(Social Science Citation Index)に収録されているジャーナルに掲載されている論文を対象とし、1995年から2000年の間に公表されたものとした。

研究対象となる文献の検索は以下の手順で行った。まず心理学データベースPyscINFOにおいて、シソーラス検索を用いてパラサイコロジーに関する文献の検索を行い、143誌、550件の論文を得た。その143誌のジャーナルをISIのMUSUTER JOURNAL LISTにて、SSCIに収録されているか否かを確認した結果、対象論文は273件に絞られた。

次にSSCIを使用し検索文献273件各々の引用文献を調査した。その結果、273件の内224件について調べることができ、これら224件の引用文献レコードは総計6,333件となった。

次に高い頻度で引用されている文献を分析の対象とするため、被引用文献レコードの出現回数の計数を行いたい正文献の選定を行った。被引用回数が10回以上である21件を選んだ。この21文献について生じる共引用を計数し、類似度行列を作成、これをもとに統計ソフトSPSSを用いて多次元尺度構成法のALSCALの方法によって共引用マップを作成した。次に28文献の書誌情報や抄録などをもとに共引用マップにおける各文献のグループ分けを行った。

2 step-mapの手順は、まず224文献の収録数の高い雑誌上位6誌の引用文献より、自誌引用を除く引用雑誌の高いものから2つを各々取り出して、矢印にしてマップをかく。

書誌情報の分析は、著者の所属の項目に注目し、地域別割合、所属機関別割合を計数し、グラフにした。

結果

パラサイコロジー研究における研究領域のマップでは、①日常的偶発的サイに関するサーベイ調査②新ガンツフェルト法③統計的分析によるパラノーマルビリーフの解釈④パーソナリティ特性とサイの4つの領域が確認することができた。

2 step-mapでは、*Journal of the American Society for Psychical Research*、*Journal of Parapsychology*、*Journal of Society for Psychical Research*が多くの矢印を受け、コアジャーナルと判断できる。

書誌分析の地域別割合では北アメリカ地域が48%、ヨーロッパが34%、オセアニアが8%。続いてアジア、南アメリカとつづく。国名では、22カ国の名があがった。所属機関では大学が72%と圧倒的な割合を示した。

考察

共引用分析により、1995年以降のパラサイコロジー研究が4つの領域からなる構造をもち、それらは最終的に2つの枠組みに収まることがわかった。実験室での実験による研究よりも、全体的に日常的偶発的なサイへと動きが変化している。

コアジャーナルとなったものは創刊年の古いものであると判明し、笠原(1987)で主要雑誌として挙げられていもので廃刊・休刊になっていないものと結果の一致が見られた。コアジャーナルを発行している入会の条件の違いがその団体の規模に反映し、それがさまざまな研究者の目に留まるか否かとなり、引用の矢印として今回現れたのではないかと考える。しかし、内容的な判断を行っていないので、必ずしもこの結果が現状に則しているとは言い難い。

所属では、データベースによる収録文献による偏りがあるにも関わらず世界的な広がりがあることが分かった。